行財政改革　4年間のスケジュールと今年の審議会の流れ

4年間のスケジュール

並行して役場内部で行革を実行しながら、審議会で
個別事業を点検、持続可能な町政を実現します。

	R8	R9	R10	R11	KGI(最終目標)
審議会	基本方針 アクションプラン を決める	個別事業の 点検・検証	個別事業の 点検・検証	個別事業の 点検・検証 4年間の総括	✓経常収支比率-5%（R6比） ✓実質公債費比率14%以下 ✓基金残高20億円以上 ⇩ 持続可能な町政の実現
役場	事業の総点検 補助金の総点検 DX推進	アクションプランの実行			

今年の審議会の流れ

第1回(5月26日)
- 諮問書提出
- 基本方針
- アクションプラン説明

第2回（7月29日）
アクションプラン深堀り
補助金見直し指針(案)説明

第3回（9月17日）
基本方針・アクションプランの結論⇒答申
補助金見直し指針承認

第4回(2月中)
今年度の振返り

本日のゴール

アクションプランの考え方をご理解いただき
疑問を解消していただく

※本日の議論をもとに、第3回ではアクションプランを整理し、答申案をまとめます。

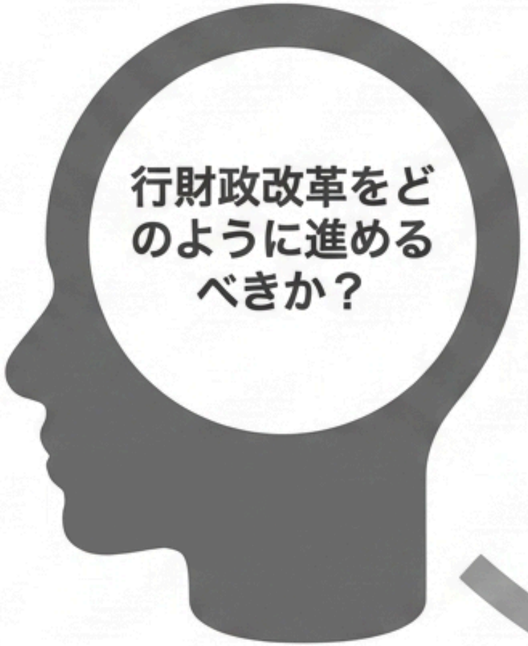
ポイント

アクションプランの良い点、改善できる点
を一緒に考えましょう

[❹基本方針について]

4つの共通判断軸

今後の行財政改革は、
4つの判断軸をもとに進めます。



次世代に課題を先送りにしない

「今ならまだ間に合う」時機を逃さず、過去に固執せずに変化にしなやかに対応する

選択と投資

優先度の高い施策に資源を配分する「選択」と町の収入増に有益な施策への「投資」の両立

住民との対話から創る

財政状況や事業内容を住民にわかりやすく伝え、審議会や対話の会の中で住民と共に決定し実行する

共創の推進

課や組織の枠を超え、行政・住民・地域・事業者がそれぞれの役割を果たし、全体の公益性に対し相乗効果を生む

KGI（最終達成目標）

KGI（重要目標達成指標）

85%
経常収支比率

財政の余力

固定的な支出により財源がどれだけ使われているか

※R6:90.5%⇒R11:85%

14%以内
実質公債費比率

借金の重さ

将来世代への負担が大きすぎないか

※近年上昇傾向
R11に13.5%でピークアウトする推計

20億円以上
財調＆減債基金残高

貯金残高

災害・景気変動・財源不足に対応できるか

※R6決算時

財政調整基金	残高	約21 億円
減債基金	残高	約 6 億円
特定目的基金	残高	約20 億円

基本方針とアクションプランの関係性

基本方針　計画期間：令和8年度～令和11年度

共通の判断軸
全ての取組の基盤となる
共通の判断基準を明確化

重点取組事項
限られた経営資源を重点分野に
集中し、成果を最大化

推進体制・進行管理
実効性のある推進体制と
進捗管理により着実に実行

どのように実行するか

アクションプラン

KGI（重要目標達成指標）

- 経常収支比率：△5％改善
- 実質公債費比率：14％以内
- 基金残高：20億円以上

重点取組事項 10項目を遂行し、KGI達成へ

1. 中長期財政マネジメントの確立
2. 事務事業の総点検と構造改革
3. 補助金・負担金の適正化と重点化
4. 公債管理の適正化と将来負担の抑制
5. 自主財源の確保と財源多様化
6. 受益者負担の適正化と将来負担の抑制
7. 効率的な組織体制と人材マネジメントの確立
8. 根拠に基づく政策形成の推進（EBPM）
9. DXの推進による業務効率化と住民サービス向上
10. 公共施設マネジメントの推進